

平成27年度

板野南小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①書く力を高め、主体的に自分の考えを伝えることのできる子どもの育成
- ②学校と家庭との役割分担による家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員

校長

関本 秋夫



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

| 児童生徒の状況 | 具体的目標(目指す子供の姿) | 成果指標 | 中間期の見直し | 取組状況 | 達成状況 |
|--|---|---|---|------|-------------|
| よさ ・学力アップタイムや家庭学習で繰り返し行うことで、計算や漢字など基礎的な技能は定着しつつある。 ・板書を見てノートを書くことができる。 | ①漢字・計算など基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ②書くことをめんどくがらない。 | ・基礎的・基本的な事項についての定着確認テストでの正解率を80%以上にする。 | 学習に対する丁寧さや正確さをつけるため、計算や漢字学習の基礎・基本を教員で再確認し、学年ごとの指導を行う。 | 評価 | 次年度における改善事項 |
| 課題 ・家庭学習の習慣化、また学習規律をさらに整える必要がある。 ・問題を読み取る力や文章を書く力に課題がある。 | ①学力アップタイムでは名文の視写を取り入れ、課題に集中して取り組ませる。 ②宿題での反復練習やミニテストでの確認を定期的に行う。 | ・学力アップタイムで隔週で計算と漢字練習を行う。月曜日は視写とする。 ・学力検査等から実態を分析し、課題に対して対策を講じる研修を年2回以上設ける。 | | | |

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況 | 具体的目標(目指す子供の姿) | 成果指標 | 中間期の見直し | 取組状況 | 達成状況 |
|---|--|---|-------------------------------|------|-------------|
| よさ ・チャイムの合図がなくても、時計を見て行動できる。 ・ハンドサインを活用して発表することができる。 ・難しい問題にも何とか正答しようと頑張ることができる。 ・読書の習慣が少しずつ定着してきた。 | 自分の考えを持ち、グループの中で発表し合うことを通じて、友達の意見や自分の考えを高めていこうとすることができる。 | ・ペアやグループの中で自分の意見を伝えることができる児童の割合を80%以上にする。 | 取り組みを継続していくが、書く活動を重点化して行っていく。 | 評価 | 次年度における改善事項 |
| 課題 ・長文や応用問題に苦手意識を持っている。 ・自分の考えを筋道を立てて的確に表現する力が不足している。 | ①教師が意識して、授業中にペア学習やグループ学習を取り入れ、話し合いを進める。 ②絵や図、文章などを用いて自分の考えを説明する活動やノート指導を行う。 | ・1日に1度はペア学習やグループ学習を取り入れた授業をする。 ・週1度はノートを提出させて確認する。 | | | |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況 | 具体的目標(目指す子供の姿) | 成果指標 | 中間期の見直し | 取組状況 | 達成状況 |
|--|--|--|----------------------------------|------|-------------|
| よさ ・運動や体験活動他、興味関心を持った活動に、進んで参加し努力を惜しまず取り組むことができる。 | ①自ら調べ解決する学習過程を身につける。 ②早寝早起きをして、学習や活動に気持ちよく臨むことができる。 | ・授業の振り返りをノートに1文書くことができる児童を80%以上にする。 | 主体的に取り組む態度の育成とともに、諦めない態度を育成していく。 | 評価 | 次年度における改善事項 |
| 課題 ・自分から課題や問題点を見つけたり、考えたりする意識が少ない。 ・健康的な生活習慣づくりが必要である。(早寝・早起き・朝ごはん・歩育) | ①問題解決的学習を取り入れ、学習のめあてを提示確認し、学習の振り返りをさせる。 ②自主学習や家庭での読書を家庭学習に取り入れる。 ③記述式や応用問題に集中して取り組む時間を設ける。 | ・学期に1～2回、生活習慣についてのアンケートを行い、意識づけをする。 ・問題解決的学習を取り入れた研究授業を年2回行う。 | | | |

平成27年度 学力向上ロードマップ

